

# 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製品名	ネジザウルスリキッド
供給者	株式会社エンジニア 大阪市東成区東今里2丁目8番9号
担当部門	技術部 Tel 06 (6974) 0100 Fax 06 (6974) 5661
作成日	2017年10月30日
改訂日	2022年4月4日
整理番号	ZC-29_20180810

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

- 健康に対する有害性

皮膚腐食性・刺激性 区分2

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A

上記で記載のない危険有害性は、分類対象外か分類できない

### GHSラベル要素

#### 絵表示



#### 注意喚起語

警告

#### 危険有害性情報

皮膚刺激  
重篤な眼への刺激

### 注意書き

#### 予防策

取扱う前に、安全データシートをよくお読みの上作業して下さい。  
(混合の危険性)本物質は還元剤であり、酸化剤（過酸化水素、ブロム酸ソーダ等）と混合すると酸素を発生し危険である。場合によっては発火の恐れもある。  
取扱い中は適切な保護具を着用して下さい。  
取扱い後は、手、顔などをよく洗い、うがいをして下さい。

#### 救急処置

眼に入った場合は直ちに清浄な流水で15分間以上洗眼して下さい。  
皮膚に付着した場合は直ちに清浄な流水で十分水洗して下さい。  
吸入した場合は直ちに新鮮な空気のある場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させて下さい。  
飲み込んだ場合は、大量の水を飲ませ医師の手当てを受けて下さい。

#### 保管

直射日光を避け冷暗所に密栓して保管して下さい。酸化剤と同一場所には保管しないで下さい。

#### 廃棄

水で希釈し、薄めた過酸化水素などで酸化処理を行い、排水の排出基準に適合していることを確認の上、廃棄して下さい。

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名及び化学式	主成分 チオグリコール酸アンモニウム $\text{HSCH}_2\text{COONH}_4$
成分及び含有量	チオグリコール酸アンモニウム 非公開 脂肪族系有機溶剤 非公開 非イオン性界面活性剤 非公開

化審法	2-1355 (チオグリコール酸)、1-391 (アンモニア)
Cas #	5421-46-5
国連分類及び国連番号	非該当品
労働安全衛生法	通知対象物質に該当しない

#### 4. 応急措置

眼に入った場合	直ちに清浄な流水で15分以上洗眼し、念のため医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに清浄な流水で十分に水洗いする。
吸入した場合	直ちに新鮮な空気の場所に移す、気分の悪い場合は医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	大量の水を飲ませ、医師の手当てを受ける。

#### 5. 火災時の措置

消化剤	通常火災と同様、水にて冷却消火を行う。
消化方法	(周辺火災の場合) 本物質と過酸化水素等の酸化剤は別な場所に保管し、周辺に散水して類焼を防ぐ。

#### 6. 漏出時の措置

少量の場合	ペーパータオル、ウエス等で拭き取り、その後多量の水で洗い流す。
多量の場合	回収可能であれば、ポリ缶等の空容器に回収後、多量の水で洗い流す。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	眼や皮膚に触れないよう、保護眼鏡等の保護具を着用する。又、本物質は金属に触れると着色するため、取扱う容器はガラス、陶器、ポリエチレン等を使用する。
保管	直射日光を避け、冷暗所に密栓して保管する。酸化剤と同一場所で保管しない。保管容器はポリエチレン等の樹脂製、又はガラス及び陶器製の容器を使用する。

#### 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度(厚生労働省)	未設定
保護具	
眼	保護眼鏡
皮膚及び身体	適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること
呼吸器	通常取扱いでは特に必要ない
手	適切な保護手袋を着用すること

#### 9. 物理的及び化学的性質

物理状態及び外観	無色透明な液体で香料臭
pH	7.0~7.8 (25℃)
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
融点	データなし
自然発火温度	データなし
引火点	データなし

燃焼又は爆発範囲	データなし
比重	データなし
蒸気圧	データなし
溶解度 水	任意の割合で溶解

---

## 10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取扱いでは安定である。長期(6ヶ月以上)保管において純度低下がある。
危険有害な分解生成物	知見なし

---

## 11. 有害性情報

急性毒性	データなし
皮膚腐食性/刺激性	チオグリコール酸6%液はコールドパーマネントウェーブ液として使用され、皮膚刺激性としては比較的弱いと考えられるが、人によっては刺激性がある場合がある。
眼刺激性	入れば刺激があり、放置すれば粘膜が侵される。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回暴露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復暴露)	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

---

## 12. 環境影響情報

環境に対する有害性	
・水生環境危険有害性	データなし
・水生環境慢性有害性	データなし
生態毒性	データなし

---

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	水で希釈し、薄めた過酸化水素水等で酸化処理を行い、排水の排出基準(BOD, CODなど)に適合している事を確認の上、廃棄する。
汚染容器及び包装	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること 容器は清浄にしてリサイクルするか、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従い適切な処分を行う

---

## 14. 輸送上の注意

容器の破損漏れがないことを確かめ、衝撃、落下、破損の無いように積み込み、荷崩れ防止を行い直射日光を避ける。又、酸化剤との混載を避ける。

---

## 15.適用法令

労働安全衛生法	通知対象物質に該当しない
消防法	該当しない
PRTR法(2021年改正)	該当しない
毒物劇物取締法	該当しない

---

## 16. その他の情報

**主な引用文献** 原料SDS、危険物ハンドブック、他

**注意** 記載した内容は現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、以上の情報は新しい知見により、改定されることがあります。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。本製品を使用するに当たって、提供された情報を運用するかどうかの最終的な決定は使用者の責任で行って下さい。全ての物質は、未知の危険性を呈する可能性があり、ここで示した危険性は起こり得る全ての危険性を網羅したものであるということを保証するものではありません。以上は情報提供であり、本情報による指示に従って本物質が取扱われようといまいと、本物質の取扱いによって生じる損害等の結果に対する責任については、一切責任を負いません。